

ユベール・スダーン

Hubert Soudant / 指揮

Profile

オランダ、マーストリヒト生まれ。ベルリン・フィル、ロンドン響、ウィーン響、ミュンヘン・フィル等へ客演するほか、ローマ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、マッソ歌劇場等でオペラも指揮している。フランス国立放送フィル、フランス国立ペイドゥラ・ロワール管等の音楽監督を歴任後、ザルツブルク・モーツァルテウム管の音楽監督を13年にわたり務め、2004年7月にはザルツブルク市名誉市民およびオーストリア・ザルツブルク州ゴールデン勲章を授与された。東京交響楽団音楽監督として10年にわたり楽団を率い、現在は桂冠指揮者。

ベルリオーズがつくりあげた「音のカラー」を堪能していただきたい

取材・文：岸 純信（オペラ研究家） 写真：藤本史昭

日本ではコンサートの現場で親しまれている名匠ユベール・スダーン。イタリアやフランスでは歌劇場で指揮することも多く、CD化されたドニゼッティ《愛の妙薬》や、サン＝サーンスの秘曲《エチエンス・マルセル》蘇演といった伝説的な名演も広く知られている。そのスダーンが、来る9月にベルリオーズの名作、劇的物語《ファウストの劫罰》全4部を演奏会形式で取り上げる。独自の世界観が際立つ作品の魅力を存分に語ってもらった。

「19世紀の当時、ベルリオーズの活動はある種の“社会現象”になっていました。新曲を欲しがったパガニーニが『2万5千ギルダー支払います』と頼んだり（笑）、あのメンデルスゾーンも『幻想交響曲』に心酔して、ある上演の際に第2ハーブ奏者が居なかったときピアノで代わりに自ら弾いたり…。この作曲家の音楽性と企画力は本当に特別なものでした。ドイツ音楽にワーグナーが果たした役割と同じぐらいに重要な、フランス音楽史に輝く偉大な人物だと思います。ちなみに、ベルリオーズはオペラも何作か書きましたが、《ファウストの劫罰》は中でも異色の存在ですね。世界初演も、彼自身の指揮にて演奏会形式で行われています」

ここで、《ファウストの劫罰》が「異色たるゆえん」をじっくりと。

「まずは物語の内容が非・連続的です。もともと『ファウスト八景』という場面集から発展した作品でもあり、普通のオペラのようにドラマを綿密に繋げてはおらず、情景ごとの独立性が高いです。いわば、連作された絵画集のようなもの。筋運びもいきなり飛びますからね。でも、演奏会形式ならベルリオーズの見事な音楽に集中して浸っていただけたらと思いますよ。音楽面では、冒頭から自然の息吹が響き渡る点が興味深いです。弦の穏やかなハーモニーの中に、鳥の声や蛙の声を思わせるフレーズが木管で飛び込んで来たり…『幻想』と同じく、“イデー・フィクス”（idée fixe：固定楽想）に溢れた曲です。劇中では〈ハンガリー行進曲〉やマルグリートの名アリア〈激しい炎のような愛は〉が特に有名ですが、後半の〈朗唱と狩り〉なども隠れた聴きどころでしょう。語るように歌うレシタティブ（朗唱）とホルンの重奏だけ的一场ですね。悪魔メフィストフェレスとファウスト博士が、語りのリズムそのままに歌声で対話します。昔の録音だと

適当に流してしまうものもありますが、私は歌手たちとみっちり稽古して本番に臨みますからね（笑）」

このほか、〈アーメン！〉の一言を学生ブランデルと酔客たちがフーガで繰り返す大合唱、「ヴァイオリンが一言も鳴らない曲」たるマルグリートのバラード〈トゥーレの王〉、そして大詰めの悪魔的なシーン〈地獄への騎行〉もベルリオーズならではの聴かせどころだろう。

「本作では、まずは何より、ベルリオーズが作り上げた、個性的な『音のカラー』を皆さんに堪能して頂きたい。フーガのコーラスもそれは壮麗ですし、クラシック音楽の9割がヴァイオリン重視のところ、ベルリオーズの音色は中低声の弦楽器群が主に作り上げるといった点も、聴いてはとさせられますよ。また、〈地獄への騎行〉では、『スル・ポンティチェロ（弦楽器が駒寄りで擦る特殊奏法）』の効果も著しいですが、歌声が呪文のような不思議な歌詞を積み重ねる辺りも、それは不気味なサウンド・エフェクトを生み出しています。でも、そうした情景の果てには、合唱を交えた精妙なフィナーレである〈マルグリートの昇天〉がもたらされます。この格別の静けさも本当に独自の境地ですね…今回は、東京交響楽団という長年よく知っているオーケストラと、《ファウストの劫罰》を一言もカットせずに演奏できるのです！何も心配するところはありません。ソリストの歌手たちも合唱団もこの新しいレパートリーに熱意をもって取り組んでくれると思います。客席の皆さまと共に、舞台上の我々も、美しく良い時間を過ごせるものと確信しています」

Information

東京交響楽団創立70周年記念公演
ベルリオーズ：劇的物語《ファウストの劫罰》
コンサート形式（字幕付）

ユベール・スダーン（指揮） 東京交響楽団
出演 ファウスト：マイケル・スバイアース
メフィストフェレス：ミハイル・ベトレンコ
マルグリート：ソフィー・コッシュ ブランデル：北川辰彦
合唱：東響コーラス、東京少年少女合唱隊

第644回 定期演奏会
9/24（土）18:00 サントリーホール
第57回 川崎定期演奏会
9/25（日）14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

■ TOKYO SYMPHONY チケットセンター044-520-1511
<http://tokyosymphony.jp>